

専門分野			
実験心理学・認知心理学・認知生理心理学・実験心理学・工学心理学			
研究課題			
ヒトの視聴覚に関する認知過程について			
教育活動			
担当授業科目(学部)			
25年度 演習A・心理学基礎実験・心理学実験実習・認知心理学・心理学研究法			
26年度 演習A・演習B・卒業研究・心理学基礎実験・心理学実験実習・認知心理学・基礎心理学			
27年度 演習A・演習B・卒業研究・心理学基礎実験・心理学実験実習・認知心理学・基礎心理学・基礎演習			
28年度 演習A・演習B・卒業研究・心理学基礎実験・心理学実験実習・認知心理学・基礎心理学・基礎演習			
担当授業科目(大学院)			
事項	年月	対象者	概要
教育方法の実践例			
IT技術を使用した表現方法の確立	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	パワーポイントやHTML、動画によるプレゼンテーション技術を使用
PCを用いた心理学実験の実施とレポート作成	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	心理学実験のプログラム作成とデータの統計分析、レポート作成について指導
文献検索の指導	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	パワーポイントやHTML、動画によるプレゼンテーション技術
IT技術を使用した表現方法の確立	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	オープンアクセスの学術論文の検索方法の紹介と情報の取捨選択について指導した
PC技術などのマニュアル作成	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	パソコン操作が苦手な学生に個別にマニュアルを作成し、自主的に操作できるよう指導
講義内容のファイル化	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	講義内容はファイル化し、公認欠席した学生などへのフォローや後任者への引継ぎなどに利用
大講義室でのコメントシートの使用	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	コメントシートによって相互理解を促進、質問や統計データのフィードバックを実施
上回生や卒業生との積極的な関わりを持てる環境整備	平成27年4月以降	帝塚山学院大学大学生	27年度より開講の基礎演習では卒業生を授業内講師として招き、具体的な将来像の形成に繋げた。
演習における研究内容の指導と履歴書作成の連携	平成28年8月以降	帝塚山学院大学大学生、特に演習履修者	研究内容を検討する際、履歴書の記載とセットで検討させている。また、履歴書の文章作成は研究論文の執筆に通じるものがあるため、合わせて指導している。
作成した教材・資料集			
パワーポイントファイル	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	ホワイトボードを使用する際も事前にパワーポイントファイルを作成し、授業の目的達成に貢献した。図や写真など必要に応じて学生に配布するものであった
心理科学の最前線	平成25年4月以降	帝塚山学院大学大学生	進学を考える大学院生向けに専門分野を分かり易く解説した。授業内容を深く理解したい学生への副読本として使用した。

基礎心理学配布資料	平成 26 年 4 月以降	帝塚山学院大学大学生	ドリル形式の文章と図表を盛り込んだ配布資料集を作成している。ノートテイキングの向上にも繋げている。
心理学実験ノート第 6 版	平成 28 年 4 月以降	帝塚山学院大学大学生	認定心理士資格の新基準に対応し、近年ノートテイキングが苦手な学生でも適宜ノートをとれるよう書き込みスペースを含んだ教材を改訂し出版した。
<b>その他教育活動上特記すべき事項</b>			
学術会議への学生の引率	平成 25 年 4 月以降	帝塚山学院大学大学生, 特に演習履修者	学術会議(関西心理学会など)や研究会への自由参加を促し, 参加者を引率する
ゼミ合宿の実施と引率	平成 25 年 4 月以降	帝塚山学院大学大学生, 特に演習履修者	合宿の企画立案を指導し, 研究発表及び動物の行動観察などの課外活動の引率を行っている。
キャリア教育の自主的な活動補助	平成 27 年 4 月以降	帝塚山学院大学大学生	心理学科生を対象に履歴書やエントリーシートの書き方を指導している。基礎演習内で SPI の対策を実施している。大学生活における取り組みの一例として葡萄祭への出店を促しサポートしている。
心理学科インターンシップ学生の取りまとめ	平成 28 年 5 月以降	帝塚山学院大学生	心理学科インターンシップの耳原総合病院を担当し, 参加学生の面談, 指導, 現地での指導, 実習簿の確認, 病院担当者との連絡などを実施した。
<b>研究活動</b>			
<b>著書・CD・論文・学会発表・演奏会等の名称</b>	<b>単共の別</b>	<b>発行又は発表の年月</b>	<b>発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称</b>
<b>著書・訳書・CD 等</b>			<b>共著者、共同発表者、共演者の名前、曲名、担当頁、概要など</b>
改訂 生理心理学 第 II 巻	共	印刷中	株式会社 北大路書房
心理学実験ノート	共	平成 28 年 3 月	(有)二瓶社
<b>学術論文</b>			

<p>【査読あり学術雑誌】</p> <p>Entire sound representations are time-compressed in sensory memory: Evidence from MMN.</p>	共	平成 28 年 7 月	Frontiers in Neuroscience, 10, 347.	<p>ミスマッチ陰性電位の頂点潜時より, 感覚記憶における聴覚情報の保持様相を検討した。結果, 物理的な時間を反映しないため, 記憶表象が時間的に圧縮されている仮説を支持した。記憶表象において, 刺激が有する空白の時間のみではなく, 刺激全体が時間的に圧縮することを明らかにした。</p> <p>Tamakoshi, S., Minoura, N., Katayama, J., &amp; Yagi, A.</p>
<p>【査読なし紀要】</p> <p>注意容量の推定—プローブ刺激法の可能性—(査読無紀要)</p>	単	平成 26 年 12 月	帝塚山学院大学人間科学部研究年報, 16 号, 37-45.	<p>分割的的注意を推定する 2 重課題法による, 事象関連脳電位 (ERP) を用いた, 認知脳機能の解明について概説した。また, 解決すべき課題について論じた。今後, 時系列な注意容量の挙動の検討について展望した。</p>
<p>【査読あり学術雑誌】</p> <p>Relationship between the mismatch negativity and the neuronal coding in rhythm change.</p>	共	平成 25 年 9 月	International Journal of Biomedical Soft Computing And Human Sciences.18(2),,25-28.	<p>一定のリズムで呈示される刺激がずれた事象に対して反応する脳部位を測定した。結果, 聴覚野で自動的にリズムのずれが検出される事が明らかとなった。その後, 前頭部の前部帯状回皮質における注意切り替えの引き起こす可能性を報告した。これらは聴覚情報の変化に対する自動的な処理とも一致する。</p> <p>Tamakoshi, S., &amp; Yagi, A.</p>
<p>【査読あり学術雑誌】</p> <p>ロッキングチェアのリラックス効果に関する工学心理学的検討</p>	共	平成 24 年 3 月	行動科学, 50, 101-105.	<p>椅子は我々の生活場面や学習場面, 職場などに広く導入され, 作業効率の向上などを目的とした工学的な検討が実施されてきた。しかし心理工学的な評価はほとんどない。そこで著者らの有する生理心理学的な手法でロッキングチェアのリラックス効果を検討した。結果, 揺れる条件は揺れない条件よりもリラックスを反映する脳波・α波が有意に増大した。心理工学的な手法を応用することにより, 快適で質の高い生活に繋がる可能性が示唆された。</p> <p>玉越勢治・山本直樹・森本文人・長江新平・市場博幸・磯博行</p>
<b>学会発表</b>				
【シンポジウム】				
<p>ミスマッチ陰性電位を指標とした聴覚情報処理の時間的側面における研究</p>	共	平成 28 年 10 月	第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会 ホテルハマツ (福島県郡山市)	<p>ある時間内に入力された聴覚情報を統合するスライディングウィンドウの役割を仮定する統合の時間窓 (TWI: temporal window of integration) と, 予期モデルに基づいて提案された規則性との関係について概観し, 最新の知見を報告する。</p> <p>玉越 勢治・片山 順一</p>
<p>事象関連電位を用いた注意容量の推定</p>	単	平成 26 年 11 月	第 44 回日本臨床神経生理学会。(福岡国際会議場)(シンポジウム)	<p>課題に向けられた注意容量の客観的かつ実験的な評価方法として, 2 次課題法が広く用いられている。本講演は 2 次課題法における, ERP を指標とした注意容量の推定についての研究例を紹介する</p>

				ものである。 共同座長
Toward a visualization of the cognitive function: Traditional approaches and new attempts.	単	平成 26 年 9 月	17th World congress of psychophysiology (シンポジウム)	人の認知機能を計測するために、事象関連脳電位が指標として用いられる。本シンポジウムでは古典的な視点と新たな手法によるアプローチの違いより、認知機能の指標の有用性について議論する。 座長
Sound representations are time-compressed in sensory memory: Evidence from MMN.	共	平成 26 年 9 月	18th World congress of psychophysiology (シンポジウム)	記憶痕跡における時間的圧縮現象について、刺激欠落の要因、持続時間の要因、音圧変化の要因について検討し、刺激全体が時間的に圧縮されている一方で、刺激の持つ顕著性の影響を示唆した。 Tamakoshi, S. & Katayama, J.
MMN を用いた心理学的研究の意義	単	平成 24 年 11 月	第 42 回日本臨床神経生理学会(シンポジウム)	MMN の頂点潜時より、聴覚神経表象は時間的に圧縮されている可能性が示唆されている。3 つの実験より、刺激全体の時間が圧縮されている事が確認され、一方検出に伴う顕著性の影響がある事を示した。
【口頭発表】				
生理心理学的手法の工学分野への応用例	単	平成 25 年 3 月	第 21 回まばたき研究会(口頭発表)	ガス暖炉による炎呈示条件下での瞬目を分析した。実験の終了にともない瞬目率が減少し、群発瞬目は暖炉群で少なかった。瞬目は緊張状態の緩和、及び暖炉によるリラックス状態を反映していると示唆された。
【ポスター】				
主課題の聴覚刺激の有無が聴覚 2 次課題の P300 に及ぼす影響	共	平成 25 年 5 月	日本生理心理学会第 31 回大会(ポスター)	視覚刺激を主課題、聴覚刺激を 2 次課題に用いたプローブ刺激法において、主課題が音声を含む条件と含まない条件で比較した。結果、主課題が音声を含む条件下でも聴覚を用いたプローブ刺激法が有用である事が示された。 玉越 勢治・中 弘樹・片山 順一
課題難易度を反映する ERP P300 のブロック内変動の検討	共	平成 24 年 11 月	日本基礎心理学会第 31 回大会(ポスター)	2 重課題法による、注意容量の推定を実施した。ブロック内において 1 分ごとに課題難易度が切り替わる実験事態では、前半 30 秒は難易度を ERP が反映するが、後半 30 秒は反映しなかった。 玉越勢治・長江新平・山村智弘・義平真規・八木昭宏・片山順一
音高、音圧の逸脱に対する MMN 頂点潜時の非対称性の検討	共	平成 24 年 5 月	第 30 回日本生理心理学会大会(ポスター)	ミスマッチ陰性電位の頂点潜時に及ぼす要因を明らかにするため、音圧レベルが変化する条件と、音高が変化する条件で比較した。結果、音圧レベルの条件でのみ頂点潜時に変化が認められた。ミスマッチ陰性電位の頂点潜時には逸脱刺激の顕著性が関与することが明らかとなった。 玉越勢治・箕浦菜々子・片山順一

演奏会・発表会				
日本生理心理学会 真昼の若手会		平成 28 年 5 月		代表・企画・運営
日本生理心理学会若手の集い		平成 27 年 5 月		企画・運営
日本生理心理学会若手の集い		平成 26 年 5 月		企画・司会
学術シンポジウム 生物・医学分野のイノベーションが 心理学に与えるインパクト		平成 26 年 3 月		企画・司会
日本生理心理学会若手の集い		平成 25 年 5 月		企画・司会
その他の研究発表、演奏				
プローブ刺激法を用いた 注意リソースの定量化	単	平成 25 年 5 月	日本生理心理学会若手の集い	
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
MMN in psychological research - A study of change in MMN peak latencies	単	平成 25 年 8 月	Clinical Neurophysiology, 124 (8), e24-e25.	【依頼原稿】国内学会発表の英文抄録
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	入試運営委員会・センター入試委員会・オリエンテーション委員会			
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	センター入試委員会・オリエンテーション委員会・教務委員			
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	アドミッションセンター員・センター入試委員会			
平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月	オープンキャンパス運営委員, アドミッションセンター員会議, センター入試委員会, 心理学科キャリア委員			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
平成 27 年 9 月以降	日本生理心理学界若手ワーキンググループ代表			
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共 の別	年月	場所	概要
成人大学講座	単	平成 28 年 6 月	大阪狭山市立公民館	日常生活で使える応用行動分析からの 観点から、心の健康と今について講義し た
学外機関委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項				

平成 27 年, 日本生理心理学会第 33 回大会運営委員

**海外での活動**

**海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること**

期間	国名	概要